

茶道筌蹄

79  
1408  
4



門 729  
1408  
4

茶道荅歸卷之四

目錄

水指

抄立

蓋置

茶入

唐

塗物化者

薄茶筥

同盆

袋切 表具切

○茶道荅歸卷之四目錄

執  
行  
藏  
書



茶道笠蹄卷之四

○水指之部

○唐物 抱桶 天竺 西凡金 毛ウル金

○青磁類 雲結 礎 天竜寺 七官

○南蛮物 繩簾 俎一横簾 笠簾

冬寒 海老子<sup>子</sup>と似<sup>ビ</sup>く<sup>ク</sup>物<sup>ト</sup>を<sup>シ</sup>元<sup>ノ</sup>係<sup>ノ</sup>書<sup>ノ</sup>付<sup>ノ</sup>冬<sup>ノ</sup>カ<sup>シ</sup>と  
何<sup>レ</sup>ノ<sup>ト</sup>似<sup>ト</sup>と<sup>シ</sup>山<sup>ノ</sup>産<sup>ノ</sup>物<sup>ト</sup>不<sup>レ</sup>疑<sup>ハ</sup>ス

メ切 南蛮物横切物

南蛮芋<sup>イモ</sup> 礎<sup>イモ</sup>の子<sup>イモ</sup>と口の廣<sup>イモ</sup>とと三谷宗鑑<sup>イモ</sup>年<sup>イモ</sup>始<sup>イモ</sup>の  
茶<sup>イモ</sup>と湯<sup>イモ</sup>を<sup>イモ</sup>何<sup>イモ</sup>ノ<sup>イモ</sup>所<sup>イモ</sup>原<sup>イモ</sup>豊<sup>イモ</sup>太<sup>イモ</sup>著<sup>イモ</sup>と銘<sup>イモ</sup>一<sup>イモ</sup>統<sup>イモ</sup>以<sup>イモ</sup>在<sup>イモ</sup>次<sup>イモ</sup>

朝鮮芋<sup>イモ</sup>既<sup>イモ</sup> 同<sup>イモ</sup>細<sup>イモ</sup> 同<sup>イモ</sup>平<sup>イモ</sup> 峰<sup>イモ</sup>吸<sup>イモ</sup>好<sup>イモ</sup>別<sup>イモ</sup>蓋<sup>イモ</sup>子<sup>イモ</sup>冷<sup>イモ</sup>銀<sup>イモ</sup>の

蝶ツガヒ裏又金の三浪

海老子 耳又海老にりる死もにり

不織 利休は初代物ハ友蓋より女庵宗其宗入宗也

其を清承以後尾州大野漢島傳友より傳ふ以外

元徳徳の不織といふにり是ハ不織の始なり山中氏

所持原豊好の益乃蓋にりブセウモノ不働乃二徳

にり不働ハ初山彦漸は花フセウモノ三浪華今宮

宗了二持より

○ 漆付

古漆付 虫喰子

○ 祥瑞

余蔵文。呉洲

菱馬 御本を等類の下駄よりと云圓扇の内より二七

一之とにり共蓋竹の節のツマにり

○ 井戸

福蓋に限る摺鉢の如きり

○ 紅毛。宋胡録。繪言麗。安南

○ 同和物金類

湯 原典は西の湯地子家は持より後よ如く新字し

数二十にり淨益地より

廣口 舟の如きを雲耳花生は兼用塗蓋之。茶入は用

由縁にハ共金の花クバリ入如く新好細工人摺地

釣瓶 利休は持塗蓋花入は兼用花クハリにり山中氏持

茶権 利休は持少庵元伯伝豊ハ傳ふ本近來浪華津屋

産三郎より近江屋体より湯へ傳来則高岡河村也

○同土物之類

○瀬戸 英瀬戸 ○奪取 筑前 ○薩戸 ○伊賀

○信樂 ○備前 ○尹部 ○唐津

○萩 ○丹波 ○宇治

○仁清 仁和寺村清助と畧して仁清と云

御室焼ともいふ

○乾山 光琳の弟と云尾形三者皆備前村に在

ると云乾山と号し京より乾の方なれば之

○同塗物之類

真子桶 紹隆好江岑若書付らるる山中氏二持底と朱

すを大黒庵とらり元朱の墨子の水指より竹墨子と云  
合以ハ伝豊より又曰方棚より合以る原豊より風炉  
より一ツ是と向らるる年々前寺炉風呂より一ツ是と  
前より伝あり

朱子桶 朱の銀の輪に岑好の内墨塗より

黒片口 利休好より本地の大の方と松本地よりを墨

塗より一ツ是と伝豊好より

海松貝片口 原豊好より外海内墨金と朱よりを几貝

の蔭弦より

○同本地之類

曲 利休好より少庵是と付らるる桐のトビメを茶蓋乃

トジメを向く有り風呂を不用

同業の経 利休形有り 正親町帝へ進献の内

釣瓶 利休形松の木地柱目。松の板目を妙法庵形

有りを利休形

○同樂焼く教

福の神 仙叟好元依銘以元ハ大撫焼アメ茶共蓋

舟曳 常叟好有り赤共蓋

鐘樓堂 元ハノコカウ作アメ色茶落込益是代原

叟字一を左入造了一を教の内二十丸

竹の節 原叟好教の内左入地赤共蓋茶原京御茶碗

開きの蓋乃好有り後よ蓋と如心教カシナメハ好

能業丸 アメ茶作之ノ籠目有り内銀箔蓋柄の一文子

接合を原叟好教二十々内左入地有り

梔子 如心教好左入地赤一閑張へギメ蓋表長入名判

如心教書付有り教の内有り元来ハ利休形今の水指

と字一を有り 作ハ水指と造りて右入年ハ 甚後若表書付ハ長入有り 利休形

全の水指を當時平野車屋より持有り


付 元依好赤を低一を共蓋白を二つ一を塗蓋

とも蓋も有り

黒筒 一入地有り千家所持有り 是ハ共蓋一

○抄立之教 番巻はこやう

○唐物金類

○蓋磁  磁の子乃本哥よりけ抄立り  
似きる蓋磁と磁といふ衣を搦つ瓶ふ似きる  
由りなり

○金探子 瓶子と限る瓶子といふ口の付く紙  
つらり子家より用ゆる更不好なり

○交趾 瓶定より

○深付 日

○祥瑞 日

○同和物之類金銀

○系瓶底 小原叟好大者如の好 大壺子より用也

○瀬戸。黄瀬戸。唐津。樂燒。皆用也

○蓋磁之類

火屋 <sup>ホ</sup> <sub>ヤ</sub> ホヤ香炉とかり用也

蓋磁一果人 元来香炉より伝叟が書付より蓋磁香炉

一閑人といふ何色の何よりコフタと云ふもの

同五果人 人形のものといふ

同三人形 唐子三人子と組合せきり

同夜学 是四つと又つといふ

赤弦の掛子 一果人のごうく人形の瓶が掛子より

浅付二方 竹の節

祥瑞 瓶定より

交趾 日

和物全類

大屋 一閑人

紫標 大まき美輪子家より用ひし小唐金利休は持

三人 利休二持原豊書付なり和物なり冬よ氏

侍 長年次 古田河の浪花殿村平右衛門所持なり

五徳 開山又徳といひ紹路所持臺子の切敷金印

いし 多く又徳と用也 此ハ宗良之

印 東山殿臨海探沙の銅印と仮用しられしが始なり

蟹 羊架仮用いしが始なり

輪 唐物より作り

禪鞆 聖祥の阿頼と載了具より(此ハ)平右衛門(此ハ)五徳

瀬戸 利休所持を教の相といひなり百金より出れ

樂焼 ツク子原豊も造輪又徳と一お入敷六十円

月徳屋 呼塚新好夕しハ内金鉢助也

月紫標 了く新好赤内金鉢助也今ハ了入もろく

竹 青白 紹路始なり節合と切一寸五分なり元水屋

の具よりと利休一寸八歩又改め中節と上節とを製せ

道安と少庵あ人へ給し新上又節なり成少庵又送る

中又節なり成道安なり新しなり是はしりて席に用ひ

来り炉又ハ中節風呂又ハ上節と定む少庵を元徳也

元徳より加洲利長と一鉢也一鉢の外御秘儀にて白竹

と桐も用也と呼塚新好なり始り判らるも用也



○茶入之類

唐物

往古より唐物のこと用也其内茄子と上品と以  
肩衝カクヰキ文林カクヰキ是より次くけ二品と云ふ是より用也  
其後亦少く成り故に肩衝中より用也

肩衝カクヰキ

名物記に出るは三十餘ものり南都松屋肩衝ハ

付来也  
列より

世より名有り一洋見も雜うりはれをかるは見り

るはれより其外より貴乃方より盛めより品より

見るとも其難し

茄子

むりより賞玩格列あり

ツケモ

似

松本

田舎

出雲

小茄子

富士

紹珍

北野

圓司

是より茄子の名物より尻張と茄子と混コトし易ヤスし

肩の丸より茄子肩の滑より其尻張より

文林

博多

桐

玉垣

香井

菅屋

紫室

本張り

丸屋

是より文林の名物より

名物唐物の茶入数多くありといふとも大方より

の二品より

文林

名物記より小出伊勢も殿漸必持ブとナといり

丸壺

利休

金叢

立花

寺沢

尻張

大尻張

利休尻張

大海 内海 鷗首 枳 達广 緝羅 物相

利休  
心持

小系袋 利休百會又用いられし茶入なり

三寸 一寸八分  
口 八分四厘 瓶 二寸  
底 一寸

右小系袋を第の裏より小系袋の持絵を伝是度  
御以花より

廣口 飯瓶 瓶子 枳 耳付 累坐

瓢箪 上枚 紀州御物 南本 伊蹄 若蔭帯

鞍轡 瓶言 水筒 子瓶 絃付

○東呉 地名なり

○西呉 同

○呂宋

○島物 地名にかりがたなり

○河和物之類

古瀬戸 着田郎入唐茶と古瀬戸といふ。口元。厚手

。堀出し子け三只に限る皆瓶子なり後道元孫師

入唐のその際を渡唐一底と下よしを焼くとき

茶も扱はよ茶も扱は相も能く出するなり入唐をハ

焼杯の瓶練もろく口と下よしを焼くとき其口元

茶も扱はよ相もろく子厚又好焼くとき着田郎

と名加友田名と名と累しそりあり。元茶八葉西

深沙唐とより茶と持ぬり鎌倉實朝云へ献せし

頭痛平金一五山一也緒家之葉と分テ後平茶  
 の入物と焼くが始りあり茶入又大小のち茶と分  
 一親疎のち分り

古瀬戸名物と分

- |      |     |     |     |
|------|-----|-----|-----|
| 筒井   | 河池  | 中川  | 山内  |
| 松前   | 多入坊 | 松井  | 繼の鞘 |
| 釣舟   | 東中庵 | 相坂  | 島山  |
| 洞言   | 彼彼  | 縮縮  | 鈴木  |
| 吉光   | 浅野  | 平野  | 福島  |
| 六條肩衝 | 淡雪  | 山の井 | 可中  |
| 平子   |     |     |     |

小瀬戸 是ハ大室のち小室のちと云ふなり

○藤四郎入唐後と唐物といふ統りも甚疑り  
 春慶 去母ハ藤四郎入道しその名なり

- |       |        |       |      |     |
|-------|--------|-------|------|-----|
| 口瓢罎   | 夏山     | 福茶    | 朝日   | 蒸餅  |
| 真中古   | 二代目藤四郎 | 丸糸切   | 本糸切  |     |
| 檜姫    | 野田     | 大瓶    | 小川   | 五山川 |
| 面取    | 不面取    | 大覚ち   | 柳藤四郎 |     |
| 糸目藤四郎 | 底面     | 花着四郎  | 熨燭   |     |
| 貯月    | 藤四郎去母  | 塞     | メ切   |     |
| 金花山   | 三代目藤四郎 | 中古物と云 | 丸糸切  | 本糸切 |
| 大津    | 花鳥川    | 玉柏    | 二見   | 瀧浪  |

生海氣 後浪黄葉 盤余野 吉水堂

廣沃

破風室 四代目後田郎 本系切 九系切 業満 破風ハ

三多丸川 音羽 孫 市場 廣口

濃紙のツマミ 檜粉木 黄系物 檜立

几 玉川 正木 栄一 桐ノ 正徳正徳

檜茶 塚正徳 後時代正徳 吉野正徳

後室 九系切 本系切 四代目孫田郎後と後室

坊主子 山道 野 利休 鳴海

織部 捨貫 八ツ橋 伊勢子

○系作部

宗伯 正意 眼医者 茶臼屋 名主小吉清

此三人紹鴎時代有

源三郎 新吉清 姓浦井 江存 茂右茂右

吉吉清 姓列不 子家以持ハ名面若

萬右清 落穂と 名物は 千家雨持有

遠州公の奇二

夫ハいそ落穂は いろは いろは いろは

多れも両面は ゆは 海は のは を

此六人利休時代の人有

仁清 仁和寺村 法助 東福門院と 宗且深願 いろは 今

日産は 不持は 仁清 此は 此は マは 今は

○茶道基跡卷之四

又仁清と斗もつり何甚う初代も可考あり

○園焼之辨

薩摩 古園焼といふ八利休時代遠州好又瓢箪形と

数十命がれを造る處は南十と歌謡を改め南十

といふ肥後薩摩を美八紀後焼なり

奪取 薩茶焼 古奪取といふ太閤時代なり各地と同

振をた系切なり

肥後 八代焼なり吉玄清といふ名人つり太閤時代

なりを後なり

丹波 古丹波を太閤時代なり。山科を子家以持

元徳山科宗甫へ茶を初を道すを求る由人存付高

因る山中氏所持 今の山科

膳所 辺江 遠州時代なり今を密なり 遠初公の好して

焼しなり宗且時代なり古

唐津 遠州時代古唐津は茶入なりい

茶碗の焼しなり

信楽 五之上地を新二郎作を新の字乃歌謡を

但し新の字柄の振よりなり

伊賀 新二郎の同地つり信楽伊賀とも古地は元生

水指又限る茶入の利休時代なり古なる

備前 五々古地つり利休所持より布袋といふつり白

地の古金線と神谷宗湛より焼なり

布袋と総以後は津谷の地持とあり今も京師と食  
九右馬の所持あり是は儼しく山田元信の所持の儀あり  
茶入と元信今布袋と総以後は高野山中氏所持  
組一山田元信と大徳との行者あり

尹部 備前カマの列所之空岳カマの名あり

祖母懐 美濃焼あり地名といふ利休時代より古記

あり。○此外は造り樂焼ハ数多く一を紙一難

樂焼ハ長二郎より古より

○同塗物之作者

五郎 羽田氏宗良の法界門の侍と信長使也又五郎の

此と法界門塗と云羽田益ともいふ珠光時代の事あり

又那此は限りてハ此の本地極目あり

余参 紀三 有人とも京住紹臨時代の事と余参

此ハ蓋多し源一 聚光院の余参の没せ一日と記

あり天正十一年癸未四月十一日

盛阿弥 系信法名紹甫太閤より天下一の号と賜ふ

二代目盛阿弥より共蓋あり三代目を終る

秀次 四代目秀次利休時代よりが名人之信祿林を湯

孫重 孫重ハ姓之名と着教と云利休時代の塗物ハ

本業よりハ此懸と云はるる名人有り故 関東へ

石出と云く江戸に信長其昔此世後を破壊せし

名名の語いと云 信長其昔と云しつろ毛の着入と

賜ふ名物有り今よ藤室の家統有り二代目ノ町家  
師と云は子孫今も在り 但し同字子と一代を  
後継と云一代ハ若者也

宗長 関氏 元伯の塗師有り余夫を盛阿弥の以て六郎  
統有り宗長以後ハ加と名も成る

元祖宗哲 中村ハ玄清勇山と号以一翁宗哲の尊  
有り始ハ時絵師有り也玄清ハ元来一翁宗哲ハ

塗師吉文字屋甚志乃の書子と有り之ノ後ハ  
玄清と中村ハ玄清ハユヅリ譲りて茶人ともあるま有り宗哲塗  
師と業と次傳く宗守の出所と有り

二代宗哲 子世以法名元哲

三代宗哲 列号紹朴又涼圃又勇毎世又け人ホウ之乾

組宗哲とて用也

四代宗哲 列号深齋紹朴の書子初ハ八郎玄清と云

五代宗哲 列号豹斎と云


六代宗哲 初代有り代々今も之を通稱ハ玄清

○同塗物の茶袋

真中次 判体於サと渡一 二寸二分五サ 二寸二分小ハ  
一寸八分藤重作と上作と次重作ハ竹の本地有り  
外も皆松本地有り

事 紹陽於 大中小 當時に紹陽於と字以其故ハ元伯  
有り江岑へ紹陽の書去りて殿より判一何る大書之業と  
入る譲る其後江岑朱漆より今一何と元伯蓋乃

裏より判と書きを仙叟へ譲りし由あり江岑の山あり  
 如ん歌あり三井へ譲り仙叟は持ハ春叟あり二村宗  
 勝へ譲り高岡浪花本村氏所持あり  
 盛阿弥大 此作より大なる書あり之を盛阿弥形と云  
 利休形 大中小 高岡写しあり形あり  
 茶の尚書 大中 桐の尚書 大中 三才十六葉の内之精授  
 あり茶の大小と桐の中と利休居士 正親町帝へ進  
 献の形あり茶の中と桐の大小と江岑の補といひ傳ふま  
 ども不分明あり通じを利休形といふ  
 目張柳 芽張柳あり織部好本奇ハ中之紀州漸茶道  
 中野英仙所持あり

元伯好の茶 大 十一葉の内  如けあり 東福門院へ献  
 上の書あり 大科白山氏所持  
 濁 大中小 大小を搦の本流中を松の本流あり内是何  
 ても元伯好あり  
 執事 盛阿弥の作自然より一の書あり之を執と利休執  
 と銘記 一ツカニト 小書あり之を尻と云ふ山中氏所持  
 け書あり似し書と元伯回首といふ銘と付る回首ハ  
 執事の美名ありけ書浪花海教屋善二は傳あり一が  
 大火の書焼失し又大書成仙叟梅子と号くあれも  
 執事の美名之執事の子と書きしよりせき名流あり又  
 執事似し回首回そよ似し梅子といふ梅子の山中



善作以持あり

尻張 利休於茶の中より張あり

平 大中とも利休於大の方きとて成道來時

歌再興以

白粉解 中 利休於二宅亡年以持中付あり 南時を

浪花山家屋種を湯以持あり

一服入 利休於あり

茶入石小 仙叟好茶入は少ハキ蓋はあり

河太郎 仙叟好大付あり甲は少ホと有るが歌好大小は

梅弦 中 去共内屋甲は墨をを捨梅ニツリり松の木

地了く斎好あり

一閑折漏 吟歌歌好後藤玄系作後寛政年中

中川浄益家抄友古力立の梅室茶の歌と書を教

三十一閑と造り

不織 了く歌好一閑を立の教二十又製以介漏内屋

甲は墨をを不織しりりクリ上は判あり

金輪寺 善大中 本地善介漏内屋大は濃茶茶中

を吟歌歌薄茶茶は用ひ元來を吉野山を

後醍醐帝一字金輪の法と修き(礼)と死傍茶

と給ふ其は山より善作以て茶茶と作は故金輪

寺茶茶と云惟法所と金輪もといひり今茶

王皇の例乃美城も是あり 乾は善作 三代宗哲の字ハ

京寺町大雲院の掬取るより大雲院の織田信忠の  
の茶提所よりけ茶茶信長公傳朱七種の内より底  
廿一と内とけり朱の盆流る

河松の木 原豊好を松の茶茶と同製数又の外内  
屋後より妙全輪と一茶化の割蓋茶の火と成  
数五十製をそそく妙好の内とを

河一茶地 中 元依好内外茶本奇ハ浪花海部屋  
必持より妙妙全サラサの茶茶好む

老松割蓋 妙善庵の老松と云く原豊数又十成  
造り妙の蓋乃裏ハ茶茶の紀けり祇南海の地と云  
紀一と日

山崎妙喜禪菴茶亭之傍有老松

枯成楮拙撈之以作茶湯珎器聊

傳遺愛於千歳而已

定々判けり

本地左邊の化け茶茶長緒能ハ合とも割蓋けり  
らひの上又長緒けりらひ妙何を袋出茶とけり内  
帛紗包をて用いられはし後北野天満宮一  
七日冬清して茶と多て長緒は定めけりよ  
常々高中を長緒中絶してけりけりか子家とて長  
緒と用ゆるけり茶茶より始り

○河薄茶茶

茶桶 大小とも黒ハ利休茶 溜る元伯好

河挽漏 大一對 判体形子家而持ハ元伯之付極浩と表し  
 けり蓋裏又判りぬ毎字一教又十宗物也二ッ入  
 雪吹 大小とも思ハ判体形漏ち元伯好金の七ナ夕と  
 草桐と甲と書くハ大小とも原豊好故先分難と故  
 雪吹とけりハ草桐大小名入浪花絳若に持けり  
 面中次 思ハ判体形漏ハ元伯好何事も中計けり夕メ  
 中次ハ元伯持と書くハ成則持中次と原豊厚けり  
 ぬハ故又教ハ中と判り  
 茶蓋 判体形けりハ他豊好ハ蓋河太郎也故とも思ハ  
 以切 林ハ故好思松の本地スリ漆思ハ桐と書くハ  
 了ハ斎好けりハ

南彫 山中宗有遺愛の標の本と云ハ其子宗智天然  
 茶蓋乃好と判りぬハ故中メアコガ凡の形成湯と  
 け思と好む細工成純思ハ内ハ天然ハ卒以故ハ天然の  
 書付ちりハ身ハ内思外漏蓋ハ本地ケリ  
 昔 元伯好因思甲スリ漆其餘ハ本地本号ハ二井は持  
 一閑張竹 折夕メ ぬハ故好竹ハ蓋の足返ハ判りけり  
 折夕メハ底ハ判りけり竹ハホウヒとハ物夕メとカワラと云  
 今ハハ竹の葉思折夕メの葉思とけり  
 ○茶入ハ蓋と判り  
 若狭盆 けハ盆元七枚好ハ入ハ若狭の濱辺ハ漆思高  
 唐物のハ盆ケリけハ盆ハ似ケリハ成竹思ハ若狭盆思ハ

内朱外青漆系入角有りいし一内朱の盆と云は盆  
唐物 唐物といふ皆朱の盆の事なり  
存星 名に記ハ松屋肩衝の許由キヨユウの長盆ナガハシなり  
堆朱 丸角とも内は鏡なりハ系入盆は不用  
喜貝 喜貝ハ形一定なり

羽田 羽田ハ郎作夫若盆松屋は持なり

松本 四方盆系入盆系紹路なり利休ハ傳人利休なり

今小路道三ハ傳人道三ハ若之付ハ翠竹といハるハ作  
道三の院号なり是松同本なりハ一ハるハ京叟ハ  
心毎も製なり

一閑 元伯好ヒ子リ縁の盆なり初代一宗作子家持

如心秋の古付なり

黒塗 傑元時代四方入り利休ハ持判なり子家ハ傳人  
八卦喜貝 黒塗ハ喜貝ハ八卦なり大田盆なり乳飾ハ  
用由如心秋好宗持製なり

黒の長盆 黒漆子ハ用由子家の外ハ用由事成  
ゆれハ漆系力ナキ盆且坐盆もハ持製ハるハ松屋  
許由の盆と同守なり

○付袋切 金漆

時代の鑑と云ハる年歴と記ハる年代詳なり  
さうハ後考と云なり

畠山 荷葉黄ハゲハ盆系の中ハるハ金漆

大サニ寸計の輪遠又空庵もわり

鶉頭 楕地大中小わり鶉頭形より茶の大サ大ニ寸水ハ

一寸計切古事古金探中第一より極上代々百年

餘より地又コキ紅より色サメを稀色の極見ゆ

ハクの色極コキ金より地合わりよくしそヨシ

をウレサイ織の

大燧 上代々百年をわり地色アカトビ枝レイのカ

紋より目スなり

長樂ち 上代々百年をわり地合地色大燧より同一

統の内七カ星又ふ茶の中カ好もわり又茶色地

もわりとわり

二人静 色濃紅の星より地紫地見ゆ尾長を

二羽の丸大サ九分程

雲山 紫地七カ星雨統カ余計カ一カなるカのカ

達坂 上代々百年をわり地色赤トヒ又茶色もわり

大燧の色と同じ紋長樂と同様より達坂丸壺乃

覆の切なり

上柳 上代々百年計為精地極極又ツ星大サニ寸計

丸統大サハ分計一面より紋わり

富岡 上代々百年をわり地色大燧と同じ金を二房

宛の雲俱一火雲小クモと二品わり或る雲よ雲

はくしの交りきれもわり同り中より金地を成

富金といふ

暖磯桐 極上代七百年計花色地金の入り甚なり  
桐のトウ桐の大サ二寸計之

蝶紋 地色大焼と同し蝶の程中より同二つを銀紋あり  
鈎石等 止代中首余年地色白を色萌黄は紫石等

の内は寶法くーらり

花麒麟 上代四百年をらり紺七口ウド又茶色又白

地色と麒麟より大サ一寸半の麒麟花とらえて居る  
東大寺の極上代六百年余紺地一寸五分計の純の丸

すゝ実法をーらり

建仁寺 地合安樂庵と同し萌黄地丹地僅然存る

唐花蔓をまよまよとらり又紫地薄淡黄地りり地  
合富内のごく横をー建仁寺什物有楽軒持の願布  
袋の表具切らり

花鬼 極上代六百年をらり紫地白地茶色地萌黄地

地紋花と鬼持程大小りり大の方八一寸二分四方りり  
小の方八分極りり

滑襪 地色いりりしりり小牡丹唐草滑襪の紋りり

縹子地とよーらり

響響 極上代四百年余花色萌黄を海波より響響

本園寺ともいふ

線林寺 白地角統の極品といふ田所入りり

角龍 上代四百年計地色白紺茶名くわり角龍

級大サハ分たたり

素山 丹地ワク子ウチ比上角龍大サハ分

筒井 地色濃紅模系大く 権振全地又比去の地の

くく二寸計葉の八く純中く純二寸わり惣小蔓

石巻より

野田 瓶色地小く近棟懸をり銀

本教り 上代四百年計白地小牡丹唐茶葉長し

紫大ブリより金厚し

雲鶴 茶地角の中く雲鶴わり惣地を富岡のくく

小雲わり

ワクタ 上代四百年むり白地流水雪水雪雲乃

丸織出く二寸純わり

本の下 上代四百年計為瓶色地又ワクタ同地も

角倉 ヒロウド地り中く花巻地去巻の耳迄く

地ウスク唐物と尺くかく尺物より地土大サ一寸二寸計

地為花名わり

高臺ち 上代四百年むり白地又赤地二重つ丸

大サハ分汁の牡丹唐料

东山 地色白地粉多コイも色又紺地わり

牡丹 或ち 唐茶のり中より

権ち夫 上代三百年計菊葉地又赤地もわり地

紋大サ一寸の餅形あり

紋ち轂 紺地縹子地の様に見ゆる物あり申す轂

の輪遠しの間は刻をけり

大友菱 紺地菱あり申す菱の内とも金又り世よ大友

菱と云ふは鳳の内は統り成り地多萌菱白紫

茶藍あり

大内桐 極上代四百年をとり地多紫白花色茶

けり紋桐子相の大サ横二三寸をとり申す蔓

系けり枝あり

義隆 上代四百年計縹子地白赤萌菱地金を桐の

トウ大サみかをとり上紋の極は鳳をけり大サ三寸計

○一説は唐桐模を大内桐とけり紋大く多あり

信長時代は渡り切ち針巻権ち夫と同時あり

大黒巻 地色黒トビ縹子地小牡丹唐菱を菱を

坂内巻 淡黄地あり申す大黒巻と同一

針巻 白地縹形大サ一寸四又分時代三百年計之

系巻 上代三百年餘白花巻地紋サシクツシ金

丸の内は向梅

紹智 時代三百年計白地金の花兔地紋地と申す目

地よ菱系スにけり切信長時代は渡り

四座 白赤花色淡黄萌菱之筋金唐州梅縹

統孤 上代六百年計白地地紋菱の内万字上紋



金龍りり

火龍口 地色紺茶萌黄七口ウド地合達坂銀志  
其形上りり握指惣金地りりを火龍口程々の  
龍の紋りり大サ長八分横六分或る火龍口の内む老  
握指りり是も握指大小りり火の方地味薄くりり  
小の方一版上品りり

細川 紺地唐花。一説は祥雲も切の小握指と細川と云  
鈕先 花色又萌黄紋金りりを鈕先二方へ入透其間  
丸龍りり上代四百年計  
荒穢 コイ花色地浪りり程大サ一寸餘黄版地浪りり  
上代三百年余

祥雲りり

安樂庵

紫地唐花折枝地りり綾紋りり  
地色萌黄丹地色色紋雲龍りり廣徳りり  
人形時代二百余年組りり文字りりるる時代少く若し  
奈良 紫地罽りりリンドウ渦雲りり一萌黄地ハ蜀江  
りりもりり

高野 地合時代安樂庵と何りり地色丹地りり牡丹  
唐草蓮葉牡丹のりり中牡丹とりり  
舟越角龍 折地組りり金地の格りり刃りりあり白モりり  
綾紋上紋龍のツメ時代三百年りり  
漸朱印 地合縹子地の格りり刃りりあり紋花りり  
雲へり金又金りりを雲の凡内りり福壽の字りり地原

縁留の方より金より少く云々統りり上代四百年計

枝切 紫地大燈の火より重枝りり故り

焼切 アマカハ船持渡の品程地色より少く

朱座切 白地二重堂芝菱

清水切 花巻地梅の折枝より

蜀金 地色茶地紋金小菱上紋カゲの丸内より龍乃

丸又獅子牡丹丸大サ(渡)三寸の余。地組下口

の中より茶色より石竹万字折入菱りり細より金

入改より蜀金と云。懸垂の袋以切之極上代四百年餘

千體佛 蜀金の上より

牡丹 大中小 地色より少く

モウル 地色浅黄萌黄金銀より系紅毛りり

細地 地色より少く鳳凰座子牡丹天人唐州

○銀様

興福寺 濃紫地寶珠の内より寶座より大サ二寸より

五ッ目より居りり極上代より百年餘

ナデシコ 萌黄地接子りり花よりりみッ目より居りり大

みふむりりりり

道言 萌紫地地紋より化よりり

花種 萌黄地より化より角籠又鶴よりり

イチゴ 薄萌黄地小鱗形

黄紙 上りの物より大内桐より縁より

○純子

白極 藍より糸浅黄纹多ク又キ寢付く極上代  
七百年餘。○白極ハ東山殿の轍歩あり純子を  
評領の轍袋あり

宗菱 花色地纹浅黄より大サ七八分程乃ハ輪遠しの  
田ノ寢付一極上代ハ百年餘

下妻 地色コヒ茶地合厚くゆり白極ハ如好し  
上代二百年餘。下妻少進より出一切あり

正法寺 地系白極ハ如好し唐系桔梗寢付良し  
摺振寢付家ハ似たり極上代ハ百年餘

本能寺 藍地浅黄より海波桔梗唐系寢付く三雲屋

又似たり極上代ハ百年餘

藤種 薄花色地纹淺黄より浅黄二重菱の内ハ梅鉢  
又万字コボシ梅も有り時代二百年餘

銀光 黄唐系地纹黒ケシサキゆり上代四  
百年餘

朽場 薄柳地ハも纹龍の丸

有樂 藍地白又キ油煙取の中ハ多又細の中ハ多  
雲ハ白龍有時代二百年餘

笹蔓 地色玉虫薄萌黄又黄唐系笹唐艸多松笠  
の入きも有り上代二百年餘

珠光 花色地ハも紋コト心色紋ハハ唐系雨龍

つり。松屋肩衝の袋口。徐熙踏の表具。世より  
珠光純子といふ唐牡丹實づくし龍の紋は成り  
同じ同撞花の色トモ紋と後珠光といふ時代  
三百年餘

渦 <sup>ウガ</sup> 藍ビロウド地同色スコシ渦紋モク目く。折  
色の地はウズの紋かりりり成上りといふ又玉子地  
又萌黄の浮紋荔枝の中より成り上り代三百  
年餘なり

紹路 花色地黄唐茶又キ唐牡丹時代二百年餘  
利休 花色地茶の又キ梅鉢  
宗伍 花色地萌黄又キ唐子純珠光より大撞花

より時代紹路と同じ

道玄 花色地法英丁子唐子上代二百年餘上  
子の純子より

遠州 花色紋父かより石曼の中より花輪遠く又寶  
徳造大石曼白浮紋抄子時代二百年餘

七羊 花色地黄唐茶荔枝唐茶鳳凰大サ七八  
より時代二百年餘。二宅七羊の羽織といふは  
つりといふも疑べし七羊好の唐織なり

定家 花色地茶又キ桔梗唐茶。京山を山原の定  
家といふ妓女の衣裳といふ時代二百年餘

住吉 蘇枋サメ紋黄カサ茶口かむりの鱗形

上代二百年余

二雲屋 云々色サメ黄唐茶紋を海波唐花雲屋  
り争う本張ちとわおト

帯刀 花色地白紋夕テワキの内よ九曜わり時代ハ  
二百年余なり

音羽 云色地紋必滝又橋の云又輪遠より菱の燈  
板其間よ窓三ツ一もわり時代二百年余

袴腰 樺葉地又藍ミル茶袴の腰板み目よ有紋  
の色為菊葉なり時代二百年余

蜀紗 帛紗の糸下 地厚薄高板わりり多く云云系  
りも人物を歎くありわり横紋一文字もわり

○漢島

鎌倉 赤心毛へギ葉うありわり雲之マ刃度よ

地合吉野と同じ廉子もわり極上代七百年餘  
鎌倉建長ちのありきの切といふ

袴之図 鎌倉の通を云田わり云  
吉野 地多コキ菊葉コビ葉を格子四分なり

四分をりの黒田乃中り形を云わり間六七分計  
わり上代二百年余

弥三ちち 鎌倉のどくく葉葉等のゆき横細を云  
組一糸系をナ、コわりをよく糸なり横よ深ス

多さち上糸と次糸二糸のありなり時代中厚云

○茶道茶蹄卷之四

上代又百年余

弥玄湯 地赤格子望島二筋格子もろり地合少

太めよ見ゆ物ろり

太子 地赤ふまをカスリろり

望月 コゲ茶地蓋望横志田もろり花色の下

ろり代然念と云上代三百年余

青木 地色不加ろり花父樺茶白黒モヘギ白系乃

浮紋上代三百年余。小松と云も同物ろり

中尾 地赤ふ系島小格子蓋中筋ろり弥三右ろ

ろり海ろり物ろり

日野 地合小弥望又色の系小格子之時代二百年余

姫路 赤ふ小系其蓋とマ

舟越 伊後大幹同

俣藤 志色地ふ心物の色ろりろり知く横筋の

浮織ろり中古百年余

紹臨 白組木綿之ヤガ面赤系を全系ハサ志田

のろり志上ろり時代二百年余

宮内 絹織品を下品ろり物ろり地色赤スミル兼

のろり幅一寸ろり横其田ろり幅三分計上代

二百年余

ミヅラ 藍とふと二筋望横島地ミヅラ千と志田ろ

中古百年余

クルリ 澤島の出出とも澤島とも定ぬ難し

○綿

蜀江 地組厚く二重織なり色りやう多しけし

二重金の移し見ゆが蜀江の江沿ツカヒなり極上代

七百年餘

綴 織物よりけし望る細き草横を能く糸をさせ

そと物よりけし表なり

有栖川 紅毛物とりて控振多しけしなり上代二百年餘

朝鮮 麗を織るなり

海黄 時代二百年餘

無地 萌黄の紫の又キ黒地の紅糸の又キなり

紋海黄 梅折枝 雲形 葉 地文をよしくけしサイ

兼七へギコビ茶柳葉緋地なり

○印金

色ハ 紫花色 萌黄 薄黄 淡黄 茶白

横隊も 牡丹唐州 花巻 水草 花巻 押分も

けし時代は百年なり

高藤印金 紫ハ古印金よりまがへ地色控振なり

けし時代二百年餘

奈良 南朝を造る物と云ふ又典目平金を造る典目

自画の糸物乃表装は弦の具をけしなり

○紗

○茶道茶蹄卷之四

時代紗 古今様同時代と云ふ地と上と次控極唐草  
多し紫花色に萌黄系淡黄白多し有り

石山紗 石山寺戸帳の類と云ふ

縫紗 糸系一と縫の入りと云ふ有り

竹屋町 右織の好むを唐へ縫又遣はる物と云ふ一説は泉

州堺の竹屋町を唐人の縫はる物ともいふ今ハ尾州

を製法竹屋町と云ふ尾州の地名なりと云竹屋町と

いハ竹まも縫はる物あり 刺々茶白

襪屋 馬金屋 百年糸系紗を仕込る物と云振

ふと其人の履早と云有り

紀 五色綾地と云ふ有り

カベチヨロ 地名有り

北絹 望りたる指列よとをけやき有り徐瀨の路の

上下のし有り

襦袢 襦地より有り

袷 有り

右々内印金 紗 縫の類を代りて不用表具切へ



茶道父全歸卷之四 終

○茶道荃蹄卷之四



